



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

小さな好きから 大きな夢中へ ミュージアムパーク

A・MUSEUM

[ア・ミュージアム]

2026.6.15

vol.120



CONTENTS

- 1 新旧館長紹介 インタビュー
- 2 企画展紹介 あつまれ! 海の骨なし動物
—めちゃ不思議で多様なすがた—
- 3 研究報告 外部協力者と電子顕微鏡を活用した研究
/ MCの小さな発見
- 4 特集 博物館職員の活動日記⑩/おさかな通信
- 5 なるほど博物館/トピックス
- 6 いちおしトピックス!/今後の企画展紹介

茨城県は太平洋に面した約190kmの海岸線を有し、大洗町を境に南部は砂浜が広がり、北部は岩礁海岸が続いています。特に、大洗町からひたちなか市にかけての茨城県中央部の岩礁海岸は比較的平坦で、生きものを観察するのに適した場所になっています。

(資料課 池澤広美)

(写真): (左上) マダコ、(右上) ミドリイソギンチャク、(左下) イトマキヒトデ、(右下) ヒライソガニ

「新旧館長紹介 インタビュー」

ミュージアムパーク茨城県自然博物館の館長が4月1日に替わりました。横山前館長から山崎新館長にバトンが渡されました。両氏のインタビューをここに掲載します。



(左)横山前館長 (右)山崎新館長

—自然博物館の10年間を振り返って

(横山前館長) 気楽に仕事ができただのが一番大きいかと思います。コロナ禍の時は少し心配しましたが、あとはストレスを感じませんでした。ストレスのない状態で仕事できたことが一番よかったです。

—館長として、心がけていたことは

(横山前館長) まず1つ目は、職員が楽しく仕事ができるような環境があること、2つ目は職員だけではなく、レストラン・清掃関係・警備関係・売店関係・友の会、すべてのスタッフと対等に付き合うことです。3つ目は、やはり博物館として、たくさんのお客様に来ていただけるように企画展を良くすることですね。特に、入館者数が少ない時期(閑散期)である冬の企画展が一番重要で、それをどうするかをいつも考えていました。

—特に思い入れのある企画展を教えてください

(横山前館長) 変形菌展ですね。変形菌というのは、ほとんどの人が知らない分野ではないですか。担当者から変形菌をテーマにした企画展をしたいと聞いたとき、入館者数は少ないだろうと思いましたが、いろいろなものを博物館として展示してほしいと思い、私はゴーサインを出しました。変形菌という名前の企画展でお客様がたくさん入るとは普通は考えられないのですが、開催したら非常に人気がありました。担当者が一生懸命になって、子どもたちを中心に楽しんで理解できる展示を考えたことが、よかったのだと思います。

—10年間で一番の思い出は何ですか

(横山前館長) コロナ禍です。コロナ禍で最初の企画展は

さくら展で、非常に素晴らしい展示内容でした。花が咲いている木を2週間ごとに入れ替えて、3か月の間、ずっと満開の桜を見てもらうという普通はできないことを実現させたのですが、その時はコロナ禍の時期でお客様が少なかったのは残念でした。コロナ禍では2年間ぐらい博物館のいろいろな機能がストップしたと思います。その間に毒展、幻の毒展と言われるぐらい20日ちょっとしか開催できないものがあったり、臨時休館が何回もあったり、かなり振り回されました。

—「ミュージアムパーク」はどんな場所ですか？

(横山前館長) 楽しい場所で、博物館としては、自然のことをいろんな方面から学ぶことができる、一番良い自然博物館だと思っています。展示の仕方など含めて一番良いと思っています。

—山崎新館長に期待することは何ですか

(横山前館長) 山崎新館長はこの博物館で学芸員として20年程在籍し企画展もたくさん経験しているので、心配はしていません。ただ、地域のみならず、この博物館内だけでなく、渉外的にいろいろと動いて、いろんな交渉をしてもらえればいいかなと思います。新館長がどうやるかによって、博物館がよくなるかどうか決まるかなと思います。展示の内容や研究の内容はあんまり心配していません。対外的なことはここに来てから、少しずつやっていってほしいと思います。

—最後に読者へのメッセージをお願いします

(横山前館長) 博物館は楽しいところですから、1回来てみればわかると思いますし、1回来れば2回・3回来なくなる、

そういうような博物館です。一度遊びに来てください。

横山館長、長い間お疲れさまでした。今後は自宅の近くの畑で野菜づくりをするとのこと。これからも博物館に遊びに来て、私たちにさまざまなアドバイスをいただけましたら幸いです。今後よろしくお願いたします。

—これまでの経歴について教えてください

(山崎館長) 学生時代は神奈川県かながわけんの丹沢たんざわや栃木県とちぎけんの日光にっくでシカの研究を、その後JICAの仕事で2年半ぐらいアフリカでライオンの研究をする機会を得ました。帰国してから東京都とうきょうの高尾たかお自然科学博物館自然科学博物館で学芸員がくげいをしながら奥多摩おくたまたまのクマの研究をはじめました。現在げんざいもクマの研究を続けています。その後、1995年から2015年まで当館で学芸員として勤務くわむしました。その後は、東京農業大学とうきょうのうぎょうだいがくの地域環境科学部ちいきやうかんげいで教授けうじゆとして勤務くわむし、11年間の教員生活けういんせいふを経て、4月にまた、博物館はくぶくわんに戻もどってきました。

—館長として就任した感想はいかがですか

(山崎館長) 以前、博物館はくぶくわんに在職ざいしやくしていたときは学芸員がくげいという立場たてまだったので、分担ぶんたんに従したがって研究けんきゆや展示しゆじ、教育普及きやうふきなどに取り組んでいましたが、今度は館長くわんちやうという管理職かんりしやくの立場たてまなので、仕事の内容しごとが相当違ちがうと実感じつかんしています。早く慣なれて館長くわんちやうとしての業務ぎふくをこなしていかないといけないな、というのが率直そつちやくな気持ちです。

—自然博物館をどのような博物館にしたいですか

(山崎館長) 初代しよだいの中川館長なかつかわくわんちやう、2代目にだいめの菅谷館長すがやくわんちやう、そして3代目さんだいめの横山館長よこやまくわんちやうと、3代の館長くわんちやうが取り組んできた博物館はくぶくわんへの思いおもは大事だいじにしていきたいと思っています。まずそれを維持いじしつつ、それをずっと維持いじするだけだと守勢しゆせいに回まわってしまうので、これからの博物館はくぶくわんに求められるものは何かというのを考えながら変かえるところは変かえていくということも必要ひつやうだと感じています。博物館法はくぶくわんぽうも改正かいせいされ、地域ちいきとのつながりなど、博物館はくぶくわんに求められることも変わかってきています。一方で、私はしばらくアカデミアの世界せかいにいたので、博物館はくぶくわんの根幹こんかんとして、やはり研究活動けんきゆかっどうはベースべいすとしてきちんと機能きんねんできるような場所にしないといけないと考えています。

—研究者を目指す子どもたちに伝えたいことは

(山崎館長) 自然科学ぜんぜんがくの分野ぶんげんはとともす野が広いので、まずは興味きやうみをもって自然ぜんぜんに接せつしてほしいです。そのときに入りやすい入口いりぐちの一つが博物館はくぶくわんだと思います。博物館はくぶくわんは子どもにもわかりやすい展示しゆじがしてあったり、質問しつもんに答えられるような研究者けんきゆしやがいたりしますので、当館たうくわんに限かぎらず、積極的に博物館はくぶくわんを利用していただきたいです。実際じつじ、子どものときに博物館はくぶくわんに来てそれがきっかけで研究者けんきゆしやになった人は多いと思います。

—最後に読者へのメッセージをお願いします

(山崎館長) 当館たうくわんでは、年に3回、企画展きかくてんを開催かいさいしていて、常に新しい展示しゆじを見ることができ、常設展示じやうせつしゆじも企画展きかくてんに連動れんどうして、随時ずいじ変わかってきていますので、いつ来ても面白いおもしろいのではないのでしょうか。ぜひ繰くりか返しお越こえしたいです。また、当館たうくわんには広い野外施設がいやうしせつがあり、季節きせつによって表情ひやうじやうが変わります。そして、レファレンス機能れふられんすきんねんがあ

るので、展示解説員てんじかいせつや学芸員がくげいにもいろいろと聞いてみてください。博物館はくぶくわんは公的な機関こうてんで誰でも利用りようできるところなので、自然史研究ぜんぜんしけんきゆや自然史ぜんぜんしに興味きやうみがある方に限かぎらず、多くの方々に気軽きげんに利用りようしていただきたいと思います。

山崎館長、新しい職場しよくばでのスタートおつかお疲れさまです。当館たうくわんには11年振ふりの勤務くわむとなります。8月から図書室とんしよしつ近くにある「博物館はくぶくわんのコシみて!」コーナーで山崎館長やまざきくわんちやうの紹介展示しやうかいしゆじを予定よ定ていしていますので、ぜひご覧ください。

P/R/O/F/I/L/E



よこやま かずみ
横山 一己

経歴/1950年岐阜県生まれ。1977年 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了、理学博士(東京大学)。ハワイ、ニュージーランドなどで研究員を歴任。1982年 国立科学博物館で地学研究部研究員。2011年 同館地学研究部部長。その後特任研究員、アドバイザーフェローなどの要職を歴任。特別展「ダイヤモンド展」、「地震展」、「翡翠展」、「黄金の国

ジパング展」などで中心的役割を担う。2016年 4月第3代ミュージアムパーク茨城県自然博物館館長に就任。10年間職員を主導し館の運営にあたりるとともに、企画展「宮沢賢治と自然の世界展」では中心的役割を担う。

◆主な著書は、「地球の大常識」(監修)。「ゼミナール地球科学入門 よくわかるプレート・テクトニクス」。変成岩の要因に関する研究をアジア・オセアニア地域で行い、国際誌に論文を多数発表。人類学や考古学などでも多くの論文を発表。



やまざき こうじ
山崎 晃司

経歴/1961年東京都生まれ。1989年 東京農工大学大学院一般教育部・生物学研究室修了、農学博士(東京農工大学)。1989年 ザンビア国立公園管理局チンゾンボ研究センター生態調査官。1991年 東京都高尾自然科学博物館学芸員。1995年 ミュージアムパーク茨城県自然博物館学芸員。2006年 同博物館首席学芸員 企画展「熊展」、「サバンナから

のメッセージ展」などで中心的役割を担う。2015年 東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科教授 2026年 第4代ミュージアムパーク茨城県自然博物館館長に就任。

◆主な著書は、「にっぽんのクマ」(監修)。「ツキノワグマ: すぐそこにいる野生動物」。「大型陸上哺乳類の調査法」(共著)。国内外でクマの生態研究を牽引してきた1人であり、獣害関係の解説者としてメディアに出演多数。環境省の鳥獣保護管理プランナー、希少野生動物種保存推進員等を務めている。

第95回 企画展 **あつまれ！海の骨なし動物** —めっちゃ不思議で多様なすがた—
 Marine Invertebrates— Weird, Wild, and Wonderfully Diverse! —
 会期/2026年7月18日(土)～2026年9月27日(日)

海にはさまざまな動物が暮らしていますが、その多くは背骨をもたない「骨なし動物」です。クラゲ、貝、カニ、ヒトデなどの仲間のほかにも、一般にはあまり知られていない種類が数多く存在し、驚きに満ちた独特の世界をつくりあげています。本企画展では、海の骨なし動物をテーマに、その形態や生態の多様性、人との関わり、そしてそれを取り巻く環境問題について紹介します。標本だけでなく、映像や生体展示も活用し、その魅力をお伝えします。ぜひ、海の骨なし動物たちが織りなす不思議な世界を感じてみてください。

序章 ようこそ海の骨なし動物の世界へ

世界最大級の貝類と甲殻類が勢揃い！



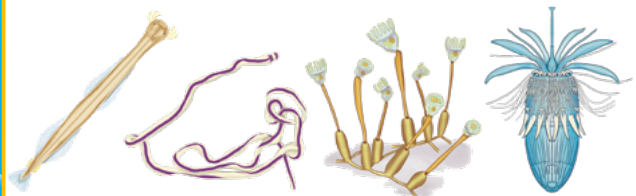
オオシャコガイ



タスマニアオオガニ

第1章 骨なし動物とは

34の全動物門を一挙紹介！海の骨なし動物は、そのうち31動物門に含まれています。



毛顎動物

紐形動物

内肛動物

胴甲動物

第2章 海の骨なし動物図鑑

代表的な9つの動物門に含まれる骨なし動物を一堂に展示！



海綿動物

刺胞動物

扁形動物

環形動物

軟体動物

苔虫動物

節足動物

棘皮動物

尾索動物

第3章 海の骨なし動物セレクション

人気の海の骨なし動物7種類が大集合！



ミズクラゲ

ウミウシ類

オオグソクムシ類

カブトガニ

サンゴ類

ダイオウイカ

タカアシガニ

第4章 人との関わり

海の骨なし動物に関する料理や道具、装飾品などを集めました。「海の骨なし動物アート」と「海の骨なし動物と遊ぼう！」のコーナーも必見です！



貝類の寿し

(協力: 歩ずし)



螺鈿が施された宝石箱

第5章 海の骨なし動物を取り巻く環境

海の環境問題について考えてみませんか？「海のごみアート」のコーナーも圧巻です！



マイクロプラスチック



シーグラスのタコさん
(提供: NPO 日本渚の美術協会)

イラスト: 小松真弓(ひとでちゃん)

外部協力者と 電子顕微鏡を 活用した研究

当館の常設展には、来館者が操作できる走査型電子顕微鏡が設置されています。これは日本で唯一の電子顕微鏡の体験型展示で、昨年3月には新しい機種へとリニューアルされました。実は、この電子顕微鏡は展示用途にとどまらず、研究にも活用されています。

化石の中には、肉眼では観察が困難なほど小さなものがあり、これらは「微化石」とよばれます。微化石には、有孔虫や貝形虫、植物の花粉など多様な種類があり、地層の年代決定や過去の環境復元に重要な役割を果たします。しかし当館には微化石を専門とする研究者が在籍していないため、外部の研究者の協力を得ながら、茨城県内の微化石研究を進めています。

金子 稔さんはそのような外部協力者の一人で、高校教員として長年勤務される傍ら、有孔虫を中心とした微化石研究に取り組んでこられました。数年前、「茨城県南部の十数万年前の微化石を研究したい」との連絡をいただいたことをきっかけに共同研究が始まり、これまでに複数の論文として成果を公表しています。

そして昨年3月の電子顕微鏡の更新を機に、この装置を用いた新しい研究に取り組みました。対象としたのは、久慈浜海岸で採集した現生有孔虫の遺骸殻です。意外にも、これまで茨城県の海岸砂に含まれる有孔虫群集を詳細に調べた報告はまだありませんでした。

研究の結果、わずか4gの海岸砂から1075個体、16属33種の底生有孔虫が確認されました。このうち80%以上は海藻帯に生息する種であり、これらの殻が波浪や沿岸流によって運ばれ、浜辺に堆積したものと考えられます。さらに、化石種である *Stilostomella* sp. も含まれて

おり、周辺の新第三紀の地層に由来する化石が混在していることも明らかになりました。

このように、外部研究者との連携により、当館職員だけでは十分にカバーできない分野の研究が可能になります。特に、リニューアルした電子顕微鏡を研究に活用できたのは、微化石研究者の協力があったからこそ実現した成果です。今後もさまざまな研究に取り組みたいと思います。

(資料課 加藤太一)



図1. 走査型電子顕微鏡と金子 稔氏



図2. 当館常設展の走査型電子顕微鏡で撮影した有孔虫 *Porosorotalia makiyamai* (Chiji), 同じ標本を3方向から撮影したもので、スケールバーは0.1mm.

論文:金子 稔・石塚勇太・加藤太一・角野凜子・朝海芽生・伊藤 咲・西山知里・鈴木彩夏. 2025. 茨城県日立市久慈浜海岸砂に含まれる有孔虫群集. 茨城県自然博物館研究報告, (28): 63-66, pls. 1-2.



ミュージアムコミュニケーター

MCの小さな発見

ジュズカケハゼ

現在、第3展示室にジュズカケハゼが展示されています。全国的に数が減っており、レッドリストにも掲載されている魚です。そんなジュズカケハゼが、なんと博物館野外施設にある「とんぼの池」で、職員が行った調査により、発見されたのです！

ジュズカケハゼは、ため池や湧水などに生息する淡水魚で、からだの側面に数珠を掛けたように黒い斑点が並ぶことからその名が付けられたといわれています。産卵期になると、オスが泥底に穴を掘り、その中にメスが産卵し、ふ化するまでオスが卵を守り続けます。そして、なんとメスがオスに求愛行動をするのです。その時期になるとメスのからだに美しい黒い婚姻色が現れるめずらしい魚です。

さてさて、「とんぼの池」では今回生息が確認できたわけですが、はたしていつから生息していたのでしょうか…。池の底でひっそりと静かに息をひそめて生きていたのかもしれないね。産卵期の今、からだを黒く染めた美しいジュズカケハゼをぜひ見に来てください♪

(ミュージアムコミュニケーター 宮澤美里)



第3展示室に展示しているジュズカケハゼ

特集 | 博物館職員の活動日記⑩

私はこれまで、身近な生きものであるミミズの調査を進めてきました。きっかけは、茨城県内のミミズ相が、ほとんどわかっていないと知ったことです。個別の種の記録はあるものの、本格的に調査した例があまりなく、明らかにしたいと考え、調査をはじめました。

当館の総合調査の一環として、主に鹿島神宮境内や常陸太田市内、常陸大宮市内などの陸生・淡水無脊椎動物を調査しました。ミミズの採集にはいくつか方法がありますが、今回は落葉や腐植物などを手で払いのけて採集しました。持ち帰ったミミズを観察し、種類を調べます。種類を調べるためには、成長した個体に現れる帯状の部分(環帯)が前部に見られるミミズが必要です。環帯がないものは幼体であり、外部形質の形成が不完全であるからです。ほかに体の毛(剛毛)や体のつくりなどの外部形態、ならびに内部のようすを見て、種類を見分けていきます。これまでに総合調査の中で、県内から200個体

以上を確認することができました。

ミミズ調査の面白さは、「見分けにくさ」にあります。同じ種類でも形が違ったり、別の種類なのによく似ていたりします。実際に、とある種類ではないかと考えていたものが、あとから別の種類かもしれないとわかることもありました。一つひとつ丁寧に観察し、少しずつ違いに気付いていく過程は、まるでなぞ解きのようです。また、倒れた木の中から見つかるなど、「こんなところにいるのか」という発見もあります。

ミミズは、土の中で落ち葉を分解し、土を豊かにする大切な生きものです。しかし、その種類や生活のようすはまだ十分にわかっていません。今後も総合調査などを通して県内の調査を続け、ミミズの世界の面白さと、茨城県に生息するミミズの実態を明らかにしていきたいと思えます。

(資料課 吉田 佑)



フトスジミミズ 黄丸部分が環帯



総合調査のようす

おさかな通信

ふって、ふられて、アミメハギ

アミメハギは、磯や藻場に生息する小型のカワハギのなかまです。体長は約7cmで、名前の由来となった独特の網目模様と、かわいらしいおちょぼ口が特徴です。

繁殖期を迎える初夏から秋にかけて、オスによる情熱的な求愛行動が見られるようになります。オスはメスを見つけると、横に並んで泳ぎながら尾びれを大きく広げ、上下に振る「求愛ダンス」を披露します。さらに注目すべきは、この時期ならではの「婚姻色」です。普段の淡い色合いから一変して、オスの口の周りや体の縁がメスの目を引くような黒色へと変化します。

現在、第3展示室の「茨城の水系コーナー」で展示中の「海の水槽」でも、このダイナミックなアピール行動が確認されています。タイミングが合えば、網目模様を黒く際立たせ、メスを懸命に追いかけるオスの姿をご覧いただけるかもしれません。



求愛ダンス中のアミメハギ
左:オス 右:メス

(水系担当 大谷那月)

なるほど博物館

いばレックスとコティランが自然に関する情報をわかりやすくお伝えします。

キノコは森のはたらきもの

(資料課 榎引豪人) イラスト: ツク之助

キノコってよく木のそばに生えてるよね。どうしてかな？

実は、キノコは地面の下で、木の根っこと菌糸でつながって「助け合って」生きているんだよ。「菌根菌」とよばれているキノコのなかまだよ。

助け合ってる？ どういうこと？

菌根菌は、木が光合成でつくった栄養をもらって生きているんだ。その代わりに菌根菌は木の根っこでは集めきれない水分やミネラルを土から集めて、木にあげているんだよ。

へー！ お互いに必要な栄養をやりとりしているんだね！

その通り。こういう関係を「共生」っていうんだよ。

共生かー。助け合って生きているなんて、いばレックスとぼくみたいな関係だね！

はは、そうだね！
そんなキノコたちは森の中で「大切な仕事」をしているんだ。

キノコが森の中で仕事をしてるの？

そう。今紹介した「菌根菌」は、木に栄養を与えて、森を元気にするよ！
でもね、キノコの中には、枯れ葉や倒れた木を分解することで「森のおそうじ」をする「腐生菌」や、相手から一方的に栄養をうばうことで生き物の数を調整して「森のバランスを保つ」はたらきをする「寄生菌」もいるんだよ。

そうなんだ！キノコたちはそれぞれ違うお仕事をして、みんなで森を守っているんだね！



ムラサキヤマドリタケ(菌根菌)



アラゲキクラゲ(腐生菌)



ハチタケ(寄生菌)

トピックス

①

オンラインチケットはじめました

博物館に多くの方が来館されると券売機に入館券を求める行列ができ、入館に時間がかかってしまいます。入館までの待機時間に対し、ご不便を感じている来館者が多いらっしゃいました。

その状況を改善するため、令和8年2月からオンラインチケットを開始しました。博物館にご来館の際には、予めオンラインチケットをご購入いただくことで、入館手続きを大幅に短縮いただけます。

『スマホで購入！券売機に並ばずラクラク入館！』オンラインチケットは当館ホームページから購入できます。当館にお越しの際には、ぜひ、オンラインチケットをご利用ください。(管理課 平川正樹)

プラン	ロコミ	スポット情報
ミュージアムパーク茨城県自然博物館のプラン一覧		
【企画展】本館・野外共通券	券別別売	券別別売
		¥850-
野外施設のみ入館券	券別別売	券別別売
		¥240-
年間パスポート引換券	券別別売	券別別売
		¥1,770-
【優待料金】年間パスポート引換券	券別別売	券別別売
		¥1,530-

この券が買えます

スマホで購入！券売機に並ばずラクラク入館！

オンラインチケット発売中!!

購入はこちら!

アソビュー!

ミュージアムパーク 茨城県自然博物館

こちらから買えます



第2展示室「地層からわかること」オープン!

第2展示室が一部展示更新され、「地層からわかること」の展示がはじまりました!

当館の第2展示室には、大地の成り立ちを語る岩石や色あざやかな鉱物、さまざまな時代の化石など、魅力あふれる標本がたくさん展示されています。これらをより深く理解するために、地層について知ることはとても大切なことです。

今回の展示更新では、地層のできかたや地層からわかることについて、3枚のはぎ取り標本と映像を使って紹介しています。

映像では、地層のできかたをアニメーションでわかりやすく説明しています。また日本各地の地層からどんなことがわかるのか、写真を見ながら知ることができます。

はぎ取り標本からは、化石や堆積したもののから過去の環境を考えたり、火山灰から地層のつながりを知ったりすることができます。

小学生や中学生のお客様にも地層の面白さを感じることができる展示となっておりますので、ご来館の際には、ぜひご覧ください。(資料課 石塚勇太)



第2展示室
リニューアル

今後の企画展紹介

日本列島誕生のひみつ ～石から発見! 大地の成り立ち～

2026年10月24日(土)～2027年2月7日(日)

日本列島で見ることができるさまざまな石や地層は、プレートの動きや日本海の形成、火山の噴火など、私たちがすむ日本の大地がどのようにしてできたかを教えてください。

今回、日本列島の大地に焦点を当て、全国の岩石や鉱物、化石、地層はぎとり標本、映像や模型などを通して、その壮大な成り立ちを紹介いたします。さあ、全国のたくさんの石から、日本列島のダイナミックな誕生のひみつを発見しましょう!

(資料課 石塚勇太)



この白い石はどこでできた!?
(石灰岩、山口県美祿市秋吉台)



この緑色の石はどうやってできた!?
(緑色凝灰岩、秋田県男鹿市)

編集 後記

ウミウシは一時のブームより落ち着いてきましたが、依然として多くの海洋生物愛好家やダイバーの間では人気があります。その多彩な色彩や形状の美しさから、写真や観察を楽しむ趣味として根強い人気があります。次回の企画展では、海の中の宝石のようなウミウシの標本や模型などもみることができます。楽しみにしてください。(Y. M)

【開館時間】 9:30から17:00まで (入館は16:30まで)
【休館日】 毎週月曜日
※休館日は異なる場合がありますので、事前にホームページ等でご確認ください。
URL <https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/>



ミュージアムパーク茨城県自然博物館友の会
入館料が無料 & 限定イベント多数!
家族会員 4,000円 個人会員 3,000円
子ども会員 1,000円 賛助会員 10,000円
※特典：イベントへの参加、ショップ・レストランでの割引

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、誰もが親しめ、誰もが楽しめるア・ミュージアム(アミューズメント+ミュージアム)をめざしています。